

令和4年8月1日発行 No.75

市議会だより

おが



●出発！釣りキチ三平拾い箱
男鹿市小中高合同海浜清掃

おが市議会だよりを
無料アプリ「マチイロ」
で配信しています。

 マチイロ



目次

◆6月定例会審議日程◆

6月10日	本会議（議案上程）
14日	本会議（一般質問）
15日	本会議（一般質問）
16日	本会議（一般質問）
17日	本会議（議案質疑）
21日	予算特別委員会
22日	常任委員会・分科会
28日	議会運営委員会 本会議（表決）

6月定例会から	P 2～P 3
議案質疑	P 3
一般質問	P 4～P 8
請願・陳情・意見書	P 8
予算特別委員会	P 9
常任委員会	P 10～P 11
討論・表決状況	P 11
編集後記等	P 12

質疑 湯西中学校を男鹿東中学校へ統合することは、あまりに長い通学時間に生徒と保護者の負担や不安も大きいと思うがどう考えているのか。

答 最も遠い五明光地区からのスクールバス所要時間は50分を想定している。通学時間を子どもたちが有効に活用できるように検討している。

男鹿市立学校設置条例の一部改正について



燃油等物価 コロナ禍における 一般会計補正

質疑 統合理由として「教育効果の向上」とあるが具体的な内容は。

答 教育は一定規模の学習集団の中で子どもたちが切磋琢磨しながら自らの考えを深め、知識を身に付けることが基本である。統合後は1学級30人程度の学級規模となる中で、互いに競い合い、能力を向上させ、「知・徳・体」バランスのとれた子どもたちの育成を目指す。さらにはより変化が激しくなる現代において生きる力をつけていくことなど、学力の向上に限らない教育効果を念頭に、日々の教育を進めている。

質疑 生徒数の減少に伴い、いずれ男鹿南中学校も男鹿東中学校に統合せざるを得ない

質疑 状況になることが予想される「教育効果の向上」を図るのならば、今回同時に統合しなかったのはなぜか。

答 小・中学校再編整備計画では、令和10年頃を目途に男鹿南中学校を男鹿東中学校へ統合し、最終的には市内の中学校が一校となることを想定している。男鹿南中学校は今後生徒数の減少が予想されるものの、早急な統廃合の推進による急激な変化は、地域感情も含め難しい点もある。地域の方々との意見交換を重ねながら、適切な統合時期について検討してまいりたい。

質疑 地域住民が抱える人口減少や過疎化への不安な思いをどう考えているのか。

答 子どもの活動やコミュ



▲湯西中学校

質疑 ニティスクール活動を通して最大限、地域の維持を保っていく。今後、統合準備委員会の中で保護者等の考えや意見を反映させながら、より良い統合に向け進めていく。

答 早い段階での利活用に向け、全庁的に議論しているところである。

7月中旬から開始される4回目的のワクチン接種関連事業費や、小中学校や保育園等への抗原検査キット整備関連事業費が本定例会で可決されており、引き続き速やかな対応に努めるとしています。

●船越小学校整備事業について
将来的に新築を視野に入れ、令和7年4月の払戸小との統合に合わせ改修するとしてい

た船越小学校舎は、老朽化が相当程度進んでいます。昨年度に実施した建物調査診断結果を踏まえ、現校舎の大規模改修に係る実施設計業務費4千142万2千円が提案され可決しました。現段階で見込まれる概算工事費12億6千万円に対する質疑もあり、また、所管する常任委員会では現地視察をするなど、児童にとつて魅力ある校舎になるよう活

発な議論が行われました。

●男鹿市立学校設置条例の一部改正について
令和5年4月に湯西中を男鹿東中へ統合するための条例改正案が提案され、「教育効果の向上」を図るための統合とした提案理由を質しました。定例会最終日には反対・賛成それぞれの討論が行われ、起立採決の結果、賛成多数で可決しました。

世帯生活支援特別給付金給付事業に要する経費を措置したもので、歳入歳出それぞれ8千310万円を追加するものです。

●令和4年度一般会計補正予算（第3号）
《主な内容》新型コロナウイルス感染症への対応をはじめ、市民の安全・安心の確保やアフターコロナを見据えた農業や食品産業の基盤強化、船越小学校の大規模改修に向けた実施設計などに要する経費を措置したもので、歳入歳出それぞれ2億2千960万円を追加するものです。

●令和4年度一般会計補正予算（第4号）
《主な内容》新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金活用事業として、コロナ禍において原油価格等を含む物価高騰の影響を受けている市民生活や観光、運輸、農林水産業など事業者の負担軽減に資する事業の実施に要する経費を措置したもので、歳入歳出それぞれ1億7千740万円を追加するものです。

《議員提出議案》
意見書4件

6月 定例会

6月定例会は、6月10日に招集され、6月28日までの19日間の会期で開かれました。

今定例会では、船越小学校大規模改修の実施設計に要する経費などを措置した一般会計補正予算案や、湯西中学校を男鹿東中学校へ統合することに伴う条例改正案など、4議案が市長から提案されたほか、地方創生臨時交付金活用事業に要する経費を措置した一般会計補正予算案が会期中に追加提案され、審議の結果、全ての議案を可決しました。また、最終日には議案4件を可決しました。

※男鹿市議会会議録は、男鹿市ホームページ「市議会」バーナーからご覧いただけます。

6月定例会

●燃油等物価高騰の影響と対策について

低所得の子育て世帯や住民税非課税世帯等、生活困窮世帯への給付事業費を措置した補正予算案（第2号）が提案され、議会としても速やかに実施に移せるようスピード感をもって審議に臨み、定例会初日に可決しました。

また、国の交付金を活用した「くらしを守る生活者支援」「コロナ禍における原油価格等高騰に打ち勝つ事業者支援」合わせて10事業に係る補正予算案（第4号）1億7千740万円が追加提案され、定例会最終日に可決しました。

市民生活支援では住民税均等割のみ課税世帯に給付金を

●新型コロナウイルス感染症対応について

3回目のワクチン接種率は5月末現在で全市民の約78%と、比較的高い割合で推移したことも奏効し、6月に入り市内感染者数も落ち着いてきています。60歳以上の方や基礎疾患等を有する方を対象に

支給するほか、児童生徒の給食費物価高騰相当分を調理場に支給し、適切な栄養摂取と質の高い給食を維持するとしています。事業者支援では、観光業へは宿泊事業者燃料費支援や観光プレミアムバスポートの追加発行、運送業へはトラック運送事業者燃料費支援、農林水産業へは省エネ化や生産性向上に必要な設備や機器導入等に対する支援を実施するとしています。



小松穂積議員
(正副議長4年以上)



船木正博議員
(議員20年以上)



島山富勝議員
(議員25年以上)



吉田清孝議員
(正副議長8年以上)

永年勤続表彰

第98回全国市議会議長会定期総会において、次の4名の議員が永年勤続者として表彰されましたので、6月定例会初日に表彰状の伝達を行いました。

可決した主な議案

6月定例会

《条例》

●過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の適用に伴う固定資産税の課税免除に関する条例の一部改正
《主な内容》租税特別措置法および租税特別措置法施行令の一部改正に伴い、条文を整理するものです。

●市立学校設置条例の一部改正
《主な内容》教育効果の向上を図るため、湯西中学校を男鹿東中学校へ統合するものです。

《補正予算》

●令和4年度一般会計補正予算（第2号）
《主な内容》令和3年度からの継続事業の住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金について、支給対象を拡充して給付するための経費を措置したほか、新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中、食費等の物価高騰等に直面する低所得の子育て世帯に対し、その実情を踏まえた生活の支援を行う観点から実施する子育て



太田 穰 議員

男鹿市の人口減少対策について

質 本市への人の流れを創り、安心して子育てができる環境を整えることが、本市が最も力を注ぐべき政策だと思うが、今後どのように取り組んでいくのか伺う。

答 自然減対策として、新たに不妊治療や出産への支援強化、高校生までの医療費の全額助成に取り組みとともに、出会い・結婚から出産・子育てまで切れ目のない支援を行う。社会減対策としては、若者の市内定着・帰郷の促進策として、地元を離れた学生などが男鹿に戻って来るきっかけづくりや、奨学金の返還助成などに取り組んでいく。

質 基幹産業である農林水産業の振興による人口増加策の考えについて伺う。

答 農林水産業の発展なくして男鹿の将来はない。地方や農林水産業が注目されているこの機を捉え他地域からの新規就業も視野に入れ、農林水産業の振興と担い手の確保・育成に取り組んでいく。

質 移住・定住施策による漁業集落や中山間地域の未来、市内9地区における均衡ある未来の姿について伺う。

答 それぞれの地域の将来の姿を展望しながら移住者と地域とのマッチングに努め、移住者を迎え入れられるよう努力していく。

質 男鹿の自然や農林水産業の魅力に惹かれ移住を考えている人もいるが、男鹿中間口地区と五里合琴川地区の間に計画されている風力発電の考えについて伺う。

答 まだ計画段階であるため、様々な状況を踏まえて市民と議論を深めていく。

質 一人暮らし高齢者の増加に伴う市民相談窓口の充実について

答 特殊詐欺への消費問題相談窓口対応について伺う。

答 生活環境課内に「消費生活センター」を設置しており、今後も相談体制の強化や関係機関と啓発活動を展開していく。

【その他の質問】

●遺族の各種手続きに係る負担を減らすための、窓口のワンストップ化に取り組む考えについて

●文化庁の「文化資源の高付加価値化促進事業」へ取り組む考えについて

●男鹿市芸術文化協会が活動しやすい環境づくりにについて



進藤 優子 議員

物価高騰における市民生活・事業者への支援について

質 原油・物価高騰の影響や不安の声が多く聞かれる中で、臨時交付金を活用した市民の暮らしや事業者を守る支援策は。

答 生活支援として、住民税非課税世帯に準ずる困窮世帯を対象に一定額の給付金を交付する。また、子育て世帯の負担軽減のため、学校給食の食材高騰分を市が手当てする。さらに、事業者支援として、宿泊・運送事業者等には燃料費の助成、農林漁業者には、燃料節減や省エネ化、生産性向上を促進する設備や機器の導入に対する支援などを講じていきたい。

消防団員の処遇改善について

質 総務省消防庁は、昨年4月に団員の処遇改善を求めている。消防団員の報酬額の引き上げと直接支給を、すぐにも行う必要があるのではないかと。

答 消防団の果たす役割の大きさと任務の過酷さを考えると、

現行の報酬レベルでは十分とは言えず、早期に報酬の見直しを行いたい。また、直接支給に改めるべく団員の方々と協議を進めていく。

給水スポットの設置について

質 ペットボトルなど使い捨てプラスチック製品の削減や熱中症対策として、マイボトルに冷たい飲料水を汲める給水スポットを公共施設等に設置すべきでは。

答 ごみ分別講習会などでマイボトルの普及・定着に努めていく。給水スポットの設置は、需要の確認と、設置・運営に係る費用対効果等を十分見極めていきたい。

母子健康手帳について

質 昨今の低出生体重児の増加、子育て環境や社会情勢等の変化により、母子健康手帳も時代に合わせた改正が必要ではないか。

答 国では、来年度の母子健康手帳のリニューアルに向けた検討会が開催されており、夏頃に見直し方針が取りまとめられる。国の検討結果等も踏まえ、時代にマッチしたより良い母子健康手帳にリニューアルしていきたい。

質 リトルベビーハンドブックを作成すべきと考えるが見解は。

答 充実したものを作るには、県全体での取組が必要と考える。作成に向けて県に働きかけていく。



小野 肇 議員

人口減少について

質 本市の最大の課題である人口減少について、その対策と今後の取組について伺う。

答 高齢化率が高い本市の人口構成では、短期間でこの流れを劇的に改善することは難しいが、自然減対策として、若い世代が安心して、結婚・出産・子育てできる環境づくりに力を入れていく。

質 また、社会減対策として、移住促進に向けた受入環境の整備や若者の市内定着・帰郷を促す取組を進めるとともに、若者や移住者が男鹿で生活していくための雇用の場の確保・創出と活躍の場の提供に努めていく。

質 地域人口の急減の抑止と地域の担い手の確保、新たな雇用の場を創出する「特定地域づくり事業協同組合制度」の活用を検討したことがあるか伺う。

答 これまで市内での組合設立の動きはなく、また事業者からの問合せはないが、有効に機能させることで人材確保と雇用の創出、



安田健次郎 議員

コロナ禍による景気対策について

質 国の対応は主に産業支援として多くの項目があるが、特に農林漁業支援としてどのような対策を講ずるのか。また今回は特に給食支援や灯油・燃油への補助もあり、さらには学生等に対する支援策は考えられないのか伺う。

答 農林水産業への支援対策として、特に影響の著しい施設園芸農家や畜産農家・漁業者等を対象に、省エネ化や生産性向上に必要な設備や機器導入等に対し助成していく。肥料の高騰に対しては国の支援制度の早期創設を要望していく。灯油等については物価高騰対策として国の交付金を活用し、市独自に非課税世帯に準ずる困窮世帯に一定額の給付金を交付したいと考えている。学生支援については就学時に奨励金の貸与を受けた市内定住者を対象に、返還への支援を実施していく。給食費については食材高騰分に相当する経費を手当とする。

ひいては地域づくりにも繋がる制度であるため、今後、先行事例を分析し、また市内事業者の意向も伺いながら、実現に向け検討していく。

水産資源の密漁対策について

質 本市では違法喚起の方法はとられているか伺う。

答 県漁協や男鹿警察署と連携し、10地区、21箇所に注意看板を設置し、漁業権のない者が採取を行った場合、罰せられる旨の注意喚起を行っている。

夏のレジャーシーズン前に市広報やホームページなどで周知を図っていく。

寒風山の観光資源について

質 寒風山まつりの復活の要件はなにか。復活はあるか。

答 まつりには、先頭に立つて企画・運営を行う事業者や、実施ボランティアといった担い手の存在が不可欠である。

寒風山の環境保全と振興に向けた新たなブレイヤーの動きを支援するとともに、従来のまつりの形態に捉われないことなく、寒風山の雄大な景観や地形を生かしたツアーやアクティビティ体験が日常的に行われ、市内外を問わず訪れた方が一日を楽しく過ごすことができる将来像を目指している。

漁業振興対応などについて

質 漁師世帯数、漁獲量や漁獲高は減る一方だが、振興策等どう取り組む考えなのか。今年は国連の2022漁業年で「規模は小さいが、価値は大きい」のスローガンが掲げられている。チャンスと捉え強力な対策の必要性があると考えているが如何か。

答 市内の漁業経営体は320と10年前に比べ約4割、漁獲量、漁獲額はいずれも約3割減少している。漁獲量や漁獲額は減少傾向が鈍化しており、これまで行ってきた種苗放流や海底耕うん、畜養殖技術の確立等「つくり育てる漁業」の効果が現れてきている。加えて担い手の確保に重点を置き、なお一層推進していく。

税金問題について

質 依然として一番重税感がある国保税。短期被保険者証や資格証明書発行の現状は。また現在、財調基金が4億5千万円程あるが、3分の1を取崩しすれば1世帯当たり3万円程は引下げ可能と考えるが、引下げの考えはないか。

答 短期被保険者証は139世帯、資格証明書が29世帯となっている。次年度以降は毎年度1億円以上の取崩しを必要としており、国保会計事業の運営状況を検証しながら安定的な運営に努めていく。



鈴木 元章 議員

いづく男鹿店、閉店跡地の活用について

質 残された跡地の活用と高齢者や車の運転ができない買物難民と言ふべき市民への対応策について伺う。

答 民間が所有する土地や建物の利活用について、基本的には行政が公の場で触れることは控えるべきと考える。しかしながら、今後も空き店舗の長期化は買物の利便性や街づくりの観点から望ましくないため、早期の有効活用、事業者等の動向を見守っていく。また、買物に困る市民への対応は、大型スーパーを経由し、船越地区へ向かう市単独運行バス路線を設けている。このほか、配食・買物代行サービスの実施や、民間事業者の事業参入を働きかけていく。

男鹿駅周辺の新たな取組と市街地活性化について

質 今後の新しい事業展開と取組について伺う。

答 これまでも地場産品を活用したイベントを行ってきたが、

今後は週末にマーケットを開催するほか、真山・北浦地区、寒風山など市内各地区のイベントと連携した形で相乗効果を発揮できるように取り組んでいく。また、市街地活性化対策については、商店街・船川地区の活性化と雇用の取組に対し、物心両面でサポートするとともに、賑わいの再生に取り組んでいく。

質 交流人口の拡大を図るため、男鹿駅周辺に資料館・図書館等の文化施設を整備する考えは。

答 財政見通しを十分勘案し、地区・場所の選定を含め慎重に検討していく。

放置船（沈船・廃船）について

質 船川港湾内の放置船の対応について伺う。

答 船舶の管理責任は一義的にその所有者であり、自主撤去が原則であることから、行政指導を強化するよう港湾管理者である県に引き続き要望していく。

【その他の質問】

●子どものソーシャルネットワークとの付き合いについて

●男鹿の景観スポットの取組について

と認識している。今後は県と協調して燃料節減、生産性向上を図る設備等への助成を行うほか、新たな支援策の早期創設を県等に要望していく。

質 担い手確保のための支援について伺う。

答 これまでの奨励金制度を見直し、対象年齢の拡大、支給額の引上げ、農業法人等への就業者も対象にするなど、大幅に支援を拡充している。また「男鹿市農産物産地づくり事業」を創設し、農業所得の拡大を図るための新たな産地づくりを推進していく。

行政改革における市政と市民の関わり方について

質 出張所窓口業務の統廃合と業務再編に向けた取組について伺う。

答 証明書等の窓口業務は減少傾向にあるため、出張所が担う業務のスリム化を図る一方、公民館機能を充実させ、双方の機能を併せ持った「地域コミュニティセンター」を新たに設置し、時代に即した地域拠点へと進化させていきたいと考えている。新たな地域支援策を講じること、ご高齢の方々への負担軽減に十分配慮しながら、年内を目途に住民説明会を開催し、市民の皆様へ丁寧に説明していきたい。



船木 正博 議員

船越市民運動広場の整備について

「現状に即した船越市民運動広場の整備計画と環境整備が必要と考える。市民の健康増進と健康寿命を推進する市長の方針は如何か。」

質 船越市民運動広場の管理状況はどうなっているか。

答 維持管理については毎年3回の草刈りを実施しており、今年度は6月12日に1回目の草刈りを行っている。そのほか、利用者から個別の要望や陳情があった場合は、その都度対応することとしている。

質 船越市民運動広場に対する市長の認識と整備について。

答 子供たちの遊び場や市民の憩いの場であり、野球などのスポーツ練習や健康づくりのための運動の場であると考えている。整備計画策定については現状の利用状況では難しいものと考えている。利用者の安全性を鑑み、グラウンドへ砂を盛るなどの整地が緊急的に必要と考えるがどうか。

答 市民からの要望もあることから、こういった形で砂を入れるかなどを現在検討しており、早急に対応してまいりたい。

男鹿市立図書館の移転整備について

「現在の男鹿市立図書館は室内が狭く、車の駐車スペースも少ない。余裕もなく立地条件が悪いと考える。男鹿市としても誇れるような、また文化都市に相応しい図書館を造るべきではないか。市長の市立図書館についての認識と移転整備の考え方を問う。」

質 市立図書館の状況について。

答 1階を公民館、2階を市立図書館としていたことから、ゆとりのある書架の配置や、学習スペース等の確保が十分とは言えない状況にある。図書館を利用する方の約6割が60歳以上となっている本市の現状からみると、高齢者においても利用しやすい環境の整備が課題であると捉えている。

質 建設候補地を含む移転整備の考え方について。

答 一連の財政見直しを十分勘案し、整備すべき場所等を含め、慎重に検討していくべきことと認識している。

【その他の質問】

●男鹿観光に向けての提案について



蓬田 司 議員

市の公共交通バス路線の運行状況と課題および今後の方向性について

質 年をとっても誰もが安心して暮らせる仕組みづくりが必要と考えるが、過疎化による町内の商店の減少により、足腰の弱った高齢の買物弱者が増えており、潟西線からなまはげモールまで、利用者にとって使い勝手の良いバス路線に改善できないか伺う。

答 潟西線からなまはげモールまでの直行便については、市民ニーズをはじめ、他の路線とのバランス等を踏まえて、その可能性を検討していく。

質 利用者にとって使い勝手の良い公共交通となつていくのか。市の公共交通の課題と改善点をどう捉えているのか伺う。

答 オンデマンド交通やマースの取組については、将来的なIT利用の促進を見据えて、早めその可能性を検討すべきと考えており、既にJR秋田支社と導入について協議・研究を重ねている。

質 高齢者や免許返納された市民から「買物支援サービスのよくな次世代の公共交通を検討できないか」という声があるが、市の見解について伺う。

答 市民ニーズが多様化しており、現在の運行形態ではその全てに対応しきれていないことも事実であり、公共交通施策に限らず、新たな買物支援策を研究し、民間事業者からの協力を得ることも解決策の一つになると考えており、移動販売等の取組の拡大を働きかけてまいりたい。

学校統合に伴う学校備品の処分方法および有効活用について

質 公民館サークル活動団体が学校備品の譲渡を希望した場合、SDGsの観点からも有効活用すべきと考えるが、見解を伺う。

答 閉校となつた学校の備品については、統合先の学校での活用を第一とし、その後、他の小学校や各公民館等で活用可能な備品を移管することを基本としており、有効活用している。

質 学校備品について、住民からの有効活用の希望があった場合、対応の有無について伺う。

答 公益上の目的で使用する町内の希望者に対しては無償で、一般の希望者に対しては有償での譲渡を検討していく。



古仲 清尚 議員

食育について

質 学校給食における食育については、農水産物等の機能性に鑑み、様々な場面において地場産品の活用拡大や健康まちづくりの取組を推進するとともに、地域への思いを深める機運の醸成に繋がることも期待される。現況や今後の展望について、市の見解は。

答 地場産食材を使用した給食は、食育にとどまらず、地域の文化や伝統、産業についての理解と関心を深めることにも繋がることから、男鹿産米をはじめ、可能な限り男鹿産の食材および地元で加工された食材の使用を通して、顔が見える地域の生産者と学校給食の結びつきを強めながら、食に関する指導の充実を図っていく。

質 農林水産省が策定した「みどりの食料システム戦略」では、自治体主導で有機農業の地産地消を進めるオーガニックビレッジの創出や、生産者組織等が主導して農薬や化学肥料、温室効果ガス削減を目指すことが示され、学校給

食等に地元産の有機農産物を使うことができるよう国が支援する仕組みづくりや、有機農業面積の拡大などの目標を掲げている。男鹿版みどり戦略（仮称）策定や有機農業推進の可能性について、市の見解は。

答 有機農業が広がっていくためには、何よりも、除草作業の機械化や生物農薬の開発を進め、農家が一般的に活用できる技術として標準化することが不可欠であることから、国や県に対し、大手メーカーと連携し、技術開発を急ぐよう要望していく。併せて、本市においても、健康志向の高い消費者や事業者で有機農産物の新たなニーズが出てきていることから、男鹿ならではの有機農業モデルの育成に努めていく。

電子図書館の実現に向けて

質 電子図書館は、電子書籍をオンライン上で貸出できるほか、利用者の利便性向上等、相互に多くのメリットが期待できる。電子図書館開設への、市の見解は。

答 開設への課題等を踏まえ、他自治体の先行事例等について情報を収集・分析し検討していく。

【その他の質問】

● スクールバス運行の現状と課題、今後の展望について

請願

● 人口急減地域特定地域づくり推進法に基づく特定地域づくり事業協同組合の男鹿市内への早期設立の促進及び若者の安定雇用の場の創出に係る請願

《主な内容》本制度の活用で安定的な雇用環境と一定の給与水準を確保した職場を作り出し、地域内外の若者等呼び込むことができるとともに、地域事業者の事業の維持・拡大を推進することが期待されている。本年4月1日現在、全国47の自治体で事業協同組合が設立済みであり、法整備に至った背景は本市が置かれている背景と同じである。よって、以下4項目を請願するものである。①事業協同組合の男鹿市内への早期設立が図られるべく、議会当局は調査・研究を行うとともに、市当局に対し設立に向け強く働きかけること。②市当局は早期の設立に向け、国や県等の関係機関と連絡調整するとともに、市内関係事業者等と協議を進め、早期設立の実現を図ること。③市当局は同組合の設立後の安定かつ円滑な運営を確保するため、必要な財政・人的支援を行うこと。④市当局は同組合を活用した若者の雇用の場の確保と移住・定住の促進の取組を更に強化すること。

継続審査

● 「水田活用の直接支払交付金」の見直しについての請願

《主な内容》政府が令和4年度からの見直しを発表した「水田活用の直接支払交付金」について、実施されれば経営が成り立たなくなり、転作作物の生産をやめる農家や耕作放棄地が増えてしまうことなど、農家や地域への影響は計り知れないことから、見直しの中止を求めるものである。

採択

陳情

● 国民の祝日「海の日」を7月20日に固定化する意見書の提出を求める陳情

● 女性トイレの維持及びその安心安全の確保に関する意見書の提出を求める陳情

● 教職員定数改善と義務教育費国庫負担割合引き上げをはかるための2023年度政府予算に係る意見書採択の陳情

● 沖縄を「捨て石」にしない安全保障政策を求める意見書の提出を求める陳情

● 地方財政の充実・強化を求める意見書提出に関する陳情

意見書

● 水田活用の直接支払交付金の見直しについての意見書

● 地方財政の充実・強化を求める意見書

● 女性トイレの維持及びその安心安全の確保を求める意見書

● 教職員定数改善と義務教育費国庫負担割合引き上げを求める意見書

4件が可決されましたので、市議会の意見として、政府関係機関へ送付しました。

予算特別委員会

全議員で構成する予算特別委員会が付託された令和4年度一般会計補正予算案について審査し、いずれも原案のとおり、可決すべきものと決しました。

委員会で質疑のあった中から主なものを取り上げ、その要旨を掲載しました。

国の交付金を活用した物価高騰対策について

質疑 今後、肥料高騰対策事業が予算化される見通しは。

答 最も懸念しているのは肥料の高騰、特に来年の営農用の秋の大幅値上げである。国では新たな支援制度を創設する検討に入ったと伺っており、県や関係機関とともに、国に対して実効性のある制度の早期創設を強く要望していく。

また、肥料の供給元となるJAに対し大口割引制度の拡充や手数料の削減など、農家の営農継続を第一に考えた対応を講じるよう働きかけていく。引き続き、農林漁業者の経営状況や資材高騰の影響度合いを見極めながら、適宜適切に支援対策を講じていく。

質疑 肥料等の資源高騰を機に、一時的な下支え対策だけでなく、抜本的に農家の所得

確保ができるよう農業振興ビジョンをつくるべきでないか。

答 今回の資源高を機に、本市農業の現状を今一度把握し、国や県の農政の方向性も踏まえ、本市の農業をより筋肉質なものにするため、「産地づくり」「法人化」「ほ場整備」等を重点に、新たに農業振興ビジョンをつくり、そのビジョンに基づき、もう一段、政策支援のギアを上げて農業の維持発展に本腰を入れていく。

温浴施設維持改修事業について

質疑 温浴施設の指定管理者である㈱おが地域振興公社の収支を含めた現状は。

答 公社の指定管理施設は、来館者数や売上げに関わらず発生する固定費の割合が極めて高く、2年連続で1千万円を超える赤字決算となった。温浴施設で利益を出せる食事

部門や宴会部門もコロナ禍の影響のほか、WAOにおいて厨房スタッフの確保ができずレストラン機能を縮小したことなどにより、収益が落ち込んだ状況にある。

質疑 今後、温浴施設の先行きが不透明な中、WAOの天井改修等に多額の費用をかける必要性は。

答 経年劣化により天井裏の骨組が腐食し、天井にも亀裂が生じるなど非常に危険な状態である。施設を続ける続けない以前に、営業をしている以上、まずはお客様の安全確保が第一と考え、補正予算をもって安全対策を講ずることと至った。この後、民間への譲渡はもちろん簡単でないが、その可能性を追求したいと考えており、その際に譲渡という形で提示するからには、やはり最低限は声掛けできるような施設の状態を維持していかなければならないと考えている。

質疑 改修による休業は。

答 2週間程度の休業が必要と見込まれ、オートキャンプ場の夏場の繁忙期を外して改修できないか協議している。

観光旅客船活用事業について

質疑 北海道知床半島沖で起きた事故が、本市の観光遊覧船へ与えた影響は。

答 シービーナスは昨年、門前から西海岸の運行を実証し、夏場の3か月程度の稼働で1千100人超の入込み数があった。これを受けて今年度はGWから運行予定としていた矢先に事故があり、関係者一同、頭を抱えたところである。現在の実績は1000人程度に留まるが、これは悪天候による影響が大きく、事故によるキャンセルはそれほどないと同っている。

質疑 今後の展望は。

答 教育旅行など学校からの問合せもあり、本格的な夏場のシーズンに向け、宿泊施設やDMOなど一体となって売込みを進めていく。

ウクライナからの避難民に対する支援について

質疑 本市は支援の検討をしているのか。

答 若美地区の農業者トレーニングセンターや市営住宅の空き部屋などでの受入れを想定し、16世帯70人程度の受

入れが可能と国に申出をしている。また、市本庁舎および若美支所に募金箱を設置しているほか、市職員有志からの募金を通じ支援していく。

男鹿の海育てる漁業定着支援事業について

質疑 八峰町の若い漁師達が試験的に始めたサーモン養殖が話題となっている。本市でも意欲ある若い方が養殖に取組む仕掛けを行えないものか。

答 岩館のサーモン養殖については、意欲ある漁業者も誘い合いながら、一度一緒に視察に行き、知識習得や意欲喚起を通して新たな展開や取組に繋げていきたい。また、本市でも「つくり育てる漁業」を掲げ、戸賀湾でのイワガキ養殖、五里合漁港でのクルマエビの中間育成、アワビの陸上養殖など、事業者からの強い意気込みや要望があり、積極的に後押ししているところである。養殖技術の確立は非常に難しいが、通常の漁だけの収入では経営がなかなか安定しないため、「つくり育てる漁業」による様々な施策を講じながら、漁業者の所得安定に取り組んでいく。

を検討していく。シーズンや期間によっては商品の入れ替えを行いたいと考えている。

質疑 商品メニューの構成は誰に決定権があるのか。

答 一義的には委託業務を受注した事業者において商品のラインアップや各事業者に対する声掛けなども実施していただくことになるが、当然市としては事業展望を踏まえながら、販路拡大支援事業により新たに開発された商品を紹介するなど、積極的に関与しながら取り組んでいく。

質疑 ある程度、委託事業者に目途はついているのか。

答 市内に急速冷凍機を保有している事業者があり、その技術をいかに活用していただく、共に冷凍加工食品の開発に取り組んでいく。

質疑 商品ができていない段階で、自動販売機裝飾予算を共に予算提案した意味合いは。

答 自動販売機の納品期間まで、鯛めしやギバサ餃子などの既存商品は準備を進めていくこともでき、販売機導入に合わせ、同時進行で本市の魅力を支えるようなラッピングデザインも進めたいと考えたものである。既存商品も入れつつ、冷凍弁当など新

たな切り口による商品開発を目指し、相乗効果で高めていきたい。

質疑 海洋高校との連携は。

答 本事業の展望や商品開発について協議を重ねており、心強いお話をいただいている。冷凍加工品製造・販売技術など、生徒の皆さんにとって有益な経験ができるよう、共に取り組んでいく。

質疑 何頭いるのか。

答 目撃情報や足跡の状況から、1頭だけではないかと予測している。目撃情報によると個体のサイズは80センチ位で、県の専門家によると親から離れたばかりのオスが単独行動をしているとの見解を伺っている。

質疑 今後の対応は。

答 現在、檻を1基仕掛けているが、全部で3基あるため、今後の目撃情報に応じて対応していく。また、住みつかせないことが重要であり、パトロールによる警戒を続けていく。

質疑 万が一の場合、猟友会はクマを撃てるのか。

答 クマ撃ち用のライフル

銃を所持している会員もいるが、背後地に斜面がなければ撃てないことなど、実際に使用して撃つという行為は簡単でない認識しており、まずは箱罟という形で対応していく。

質疑 景観や観光資源等、本市の財産を損なう可能性があると考えが、今後の展望を示していただきたい。

答 事業者が関係行政機関や住民からの意見を集約して計画を立てる仕組みであり、現段階で市としてコメントするのは難しい。再生可能エネルギーは重要な我が国の課題であるが、一方で環境や景観などへの配慮も十分されるべきであり、住民の意見が反映された計画が策定されるべきものと認識している。

意見 この段階で反対の意見を明確にしなければ、事業が進んでいってしまうと懸念している市民もいる。そこは理解していただき、観光や景観に対する市の考えや立ち位置を持ち合わせていただきたい。

本条例は「教育効果の向上を図るため」統合するとしている。具体的には①一定の集団規模の確保で多様な考え方に触れ、切磋琢磨により資質や能力を伸ばす。②教職員が多岐にわたる指導ができる。③部活動が増えることで活動の幅が広がる。と説明している。しかし、小規模校でも十分切磋琢磨でき、多様な考え方、資質や能力を伸ばすことができるかと考える。また、通学時間が長く不平等感が大きくなり、保護者の負担も多くなる。さらには、地域やコミュニティの在り方が具体化されておらず、学校が遠くなることで過疎化する要因にもなるかと考える。よって、原案に反対するものである。

議案第48号に対する賛成討論
進藤 優子 議員

現状さらには今後、生徒数の減少等により従前のような総合的かつ効果的な教育環境の構築が容易に図られない状況になってきている。また、

議案第48号 男鹿市立学校設置条例の一部を改正する条例について															
表決状況 (令和4年6月定例会)															
	市民クラブ					政和会			明政会		公明党		公明党		議決結果
	畠山	船木	鈴木	吉田	太田	三浦	笹川	蓬田	吉田	小松	佐藤	古仲	安田健次郎	進藤 優子	
議案第48号	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	×	○	可決

※小松穂積議長は採決に加わりません。
※採決で賛否が分かれた案件を掲載しています。他の案件については、全会一致で可決されました。

地域の関係者、特に保護者とも話し合い協議を経た上でこのような結論に至ったと理解している。以上の理由も踏まえ、男鹿市の未来ある子どもたちの教育効果の向上のため、原案に賛成するものである。

委員会・分科会の動き

各常任委員会・分科会は、付託議案等と所管の予算案を審査しました。
質疑のあった主な事項は、次のとおりです。

総務

暮らしを支える地域交通整備事業について

質疑 実施に至った経緯は。

答 一例として、男鹿みなと市民病院への夜間救急搬送後、処置後に帰宅する手段がなく、道の駅で一晩過ごしたという事例があり、午前0時から6時まで公共交通空白時間帯を解消し、市民の安全安心の確保を図るため実施することとした。

質疑 国・県等の支援は。

答 当該事業は市の単独事業で、今年度はニーズを分析しながら実施し、次年度以降は改良を加え、安定した運行体制の構築を図りたい。

「コミュニティ助成事業について」

質疑 実施に至った経緯は。

答 一般財団法人自治総合センターが宝くじの受託事業収入を財源とした事業であり、昨年の広報8月号に掲載した募集記事により、緑ヶ丘町内会が申請した結果、これまでの町内会活動等が評価され採択に至ったものである。

質疑 今後、町内会が申請する際の事務的な手助けを、職員の地域担当制で関わることはできないか。

答 本年5月の「地域担当職員連絡会議」において、町内会に対して、市の施策・事業はもちろんのこと、国・県等の補助制度の周知も図っていくことを確認したところである。事務的な関わりについては、書類作成等の全てを市職員が担うのではなく、助言等を行いながらサポートすることが望ましいと考えている。

教育厚生

船越小学校整備事業について

質疑 改築ではなく大規模改修

修とした理由は。

答 最終統合後の学級数を具体的に見通せる段階で改築することが合理的かつ経済的であり、維持管理費もかかり増しにならないと判断した。近年の出生数や人口動態予測から、20年程度先には1学年1学級規模になると推測されることから、まずは20年前後もつような大規模改修をしつかり行い、その後改築するという結論に至った。



▲船越小を現地視察しました

質疑 提案に至った経緯は。

答 令和3年度に廃校舎活用プロジェクト委員会を立ち上げ基本方針を策定した中で、

市HPや文部科学省「みんなの廃校プロジェクト」に情報を掲載し、廃校舎利活用の発信に取組んできたところである。市有施設としての活用のみならず民間事業者による活用を促進するため、民間事業者目録での活用方法や可能性等の具体的な形を提案する必要があると考え実施するものである。

質疑 対象施設を旧男鹿北中学校、旧野石小学校、船川北公民館の3拠点とした理由は。

答 廃校になってからの期間が比較的短いため状態が良く、すぐに活用できる可能性が大きい。また、耐震に問題がないことが3拠点に共通する事項である。

給食費支援事業について

質疑 地場産食材を取り入れながら物価高騰相当分を助成するものだが、現実に達成できるのか。

答 保護者の経済的な負担を抑えるとともに、地域経済にどう還元していくかということも重要な要素である。物価高騰相当分を15%と想定した中で、できる限り市内の業者から食材料を調達したいと考えている。

産業建設

アフターコロナに対応した地場産品販売事業・冷凍加工品自動販売可能性調査について

質疑 自動販売機のラッピングデザインは誰が決定するか。

答 装飾業務も含め委託するが、市としても意見を持ち合わせながら協議していく。

質疑 設置予定のオガレと温浴ランドおがでは、それぞれ商品メニューを変えるのか。

答 設置場所のニーズ等も考慮し、どういったものが売れているかなど可能性を調査しながら商品メニューの構成

議会報告会を開催します！

男鹿市議会では、議会の役割や責任を明確にし、市民に開かれた議会のあるべき姿を定めた「男鹿市議会基本条例」を制定しています。

市政の諸課題に柔軟に対処するため、市民と市議会議員が自由に情報および意見を交わす場として議会報告会を開催いたします。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。



▲令和元年度に開催された協本地区議会報告会

開催日	時 間	会 場	出席議員（○は代表者）
8月6日(土)	10時～	戸賀市民センター	《1班》 ○畠山富勝・笹川圭光 古仲清尚・蓬田 司 鈴木元章
	13時30分～	北浦市民センター	
	16時～	男鹿中公民館	
8月8日(月)	9時30分～	椿市民センター	《2班》 ○佐藤 誠・小松穂積 小野 肇・進藤優子 田井博之
	13時30分～	船川港公民館	
	16時30分～	脇本公民館	
8月8日(月)	10時～	五里合公民館	《3班》 ○船木正博・安田健次郎 太田 穰・吉田清孝 吉田洋平・三浦利通
	15時15分～	船越公民館	
	18時～	若美コミュニティセンター	

お問い合わせ／男鹿市議会事務局 TEL 24-9150

～まちの未来が見える～

議会傍聴においでください

6月定例会は傍聴者延べ36人「次の定例会は9月」



令和4年9月定例会日程（予定）

月	日	曜	会 議 名	主 な 内 容
9	1	木	本 会 議	決算特別委員長報告（公営企業会計） 質疑、討論、表決 市長提出議案上程（提案理由の説明）
	5	月		一般質問
	6	火		一般質問
	7	水		一般質問
	8	木		議案質疑、常任委員会付託、予算特別委員会付託 決算特別委員会設置・付託
	9	金	予算特別委員会	付託議案の審査・分科会設置
	12	月	決算特別委員会（一般・各特別会計）	付託議案の審査・質疑・討論・表決
	13	火	常任委員会・分科会	付託議案等の審査・現地調査 （総務委員会・教育厚生委員会・産業建設委員会）
	14	水		
	15	木	予算特別委員会 議会運営委員会	各分科会委員長報告、質疑、討論、表決 最終日の運営について
9	22	木	本 会 議	各委員長報告 （総務・教育厚生・産業建設・予算特別・決算特別） 質疑、討論、表決

編集後記

▼ロシアによるウクライナへの侵攻を直視し、様々なことを考えます。国の防衛力、安全・安心な生活、そして家族。今の私たちに何が出来るか考えさせられます。

▼コロナ禍で見送られていた議会報告会が、8月6日と8日に開催されることと

なりました。
市政についてのご意見やご質問を多数お聞かせください。多くの市民の皆様のご参加をお待ちしております。

▼議員となり初めての定例会が終了しました。改めて職責の重さを痛感し、市民全体の代表者であることを忘れずに議論を深めてまいります。
（小野肇）